

聖なる契約

永田円了



Sacred Contracts

人がこの世に生まれたことは、偶然か必然か？この問いに答えるために、次の問いをしてみよう。私たちの身の周りのもの、例えば、テレビ、携帯電話、時計、これらは偶然に生まれたのか？ 必然である。

それぞれの目的を果たすために、つくられたものである。であるなら、人間も必ずや目的（役割）があってこの世に生み出されたものであるはずである。

今回のテーマ「聖なる契約」とは、人がこの世で果たすべき約束ごと、与えられた課題、のことである。

人生に偶然に登場する人はいない

人生を歩むとき、まあいろんな人に出会う。会えて嬉しかった人、心をときめかす人、ずっと一緒にいたい人、逆に、会いたくなかった人、つまらない人、思い出だけで背筋が寒くなるような人などなど、人生に登場する配役は、斯く斯く然々である。

しかし「聖なる契約」の視点から見ると、この出会う人たち全てが、自分がこの地上で学び、意識の深みに降りていくための仕掛けなのである。

「人生で最も多くを学べる相手とは、“小暴君”である」（アメリカの作家・人類学者、カルロス・カスタネダ）

一見理由もなく私たちがいらつかせ、自分自身の一番嫌な面を見せつけられる相手、その存在が実は一番の教材であるとは、まさに Aha-である。



物事を象徴的に捉える

天使が言った；事が起こったとき、狭い心は、事を起こした犯人捜しをする、平凡な心は、その事のみを調査する、広い心は、事のウラに潜むメッセージを探す

白雪姫のストーリーを教材にしてみよう。

「鏡よ鏡、この世で一番美しいのは誰？」と尋ねる女王。鏡は、自分自身の象徴である。「一番美しいのは白雪姫」と聞いて激怒する女王は、支配欲に囚われた自我である。また床掃除をする白雪姫は、最も凡庸な作業にさえ安らぎと満足感をもつ高次の自己の象徴として捉えられよう。



無意識世界を支配する自我（エゴ）は、自らの存在を知らしめるため、高次の自己を抹殺しなければならない。実は、こういうことが私たちの心の中で、日々繰り広げられているのである。



<事 例>

左手のピアニスト、館野 泉、音楽の本質に左手で迫る

白雪姫、ストーリーを象徴的に捉える

シャーリー・マクレーン、悪者より学ぶ

映画「わたしを離さないで」、聖なる契約を自覚してこの世に、

三島由紀夫、死を生前提とした幸福感

歌・Climb Every Mountain、The Sound Of Music より

